

はじめに

「カオストラゴンという生き物を知っているだろうか？ 始祖の竜にして混沌の母。この世にいる怪物のほとんどはこのカオストラゴンから生まれ、繁殖したともいわれる怪物だ。

私は、この生物に興味を持ち調べることにした。周りは『そんな怪物は作り話だ』とかいう者が多かったが、関係ない。重要なのは、私がカオストラゴンについて知りたいとおもったことなことから。

伝承や歴史書、ありとあらゆる資料を調べ、ついにカオストラゴンがいるという場所突き止めることができた。ガドバレル地方の奥地、3方を切り立った崖に囲まれた盆地の森に、巨大な白い繭がある。その中にカオストラゴンが眠っているというのだ。その繭の中にはカオストラゴンが生み出したもので、その中ではほかでは見られない変わった生き物の宝庫だという。

私はそれを聞いた時、居ても立ってもいられなくなり、現地向かい、この話が嘘でないことを知った。これから書き示すことは私がそこの体験をまとめたものだ。文章では伝えきれないかもしれないが、それでも書き残しておこうと思う。胡散臭いと思うならこの本を閉じると良い。

それでは話そう。あの『百竜の森』にすむ摩訶不思議な生物の話を」

「百竜の森」 著ザスカル 目次より抜粋

君は、考古学を学ぶ学生である。カオストラゴンについて調べることになった。

カオストラゴン。始祖の竜とよばれる特殊な竜で、取り込んだ生物の特徴を受け継いだ子どもを生み出すのだ。そのカオストラゴンについて、大学の図書館で調べていると、「百竜の森」という本を見つけた。その本によると、ガドバレル地方にカオストラゴンが眠っており、そこにはカオストラゴンが生み出した様々な怪物が生息しているというのだ。

その本を読み進めていくうちに、興味深い生き物を知った。ジュエルドラゴンという竜だ。この竜もカオストラゴンから生まれたものだが、最大の特徴は、その体に、様々な大きさの宝石をつけていることだ。このジュエルドラゴンは鉱石を主食としているらしく、ためた鉱石に含まれる宝石が体の表面に出てくるらしい。その宝石は自然に採掘される宝石より、大きく、質もいいというのだ。これが本当なら、ジュエルドラゴンを捕まえることができるなら一攫千金だ。百竜の森は一年中、カオストラゴンが生み出す繭によって中に入ることにはできないが、ある時期、ほんの数日だけ繭がなくなるときがある。眠っているカオストラゴンが起きる為だと書いてあったがそれはどうでもいい。

君は、この本に書かれていることが正しいか確かめるため、ガドバレル地方へ調査に行くことに決めた。そこで、確かにカオストラゴンの繭といわれる場所があることを突き止めた。本に書いてあるとおり、年に数日だけ繭がなくなること確認した。ただし、その際、繭の中にいる化け物も出てくるといふ事も聞いた。そのため地元の人はその繭がある場所にはほとんど近づかないというのだ。こ

の話聞いたとき、君は本に書いてあることが真実だと確証した。そこが百竜の森だと。

君は百竜の森を探索するため、資金を集めることにした。ほどなくして、スポンサーが見つかる。この地方の貴族だ。カオスドラゴンの肉を食べた者は不老不死になれる。そんな言い伝えがあるのだ。その貴族が言うには援助の代わりにカオスドラゴンの肉をとってこいというのだ。物によっては、追加報酬も出すという。君はスポンサーの援助もあり、腕利きの冒険者を雇い、大規模な捜索隊を率いて百竜の森を探索しに向かった。

しかし、結果は散々だった。森に入っただけで、巨大な虫(後で調べたところ、ダンドラゴンというらしい)に探索隊の大半を踏み潰され、生き残ったものを率いて、奥に進むも、見たこともない生き物達の襲撃が続く、犠牲者は増えていった。探索隊はばらばらになり、君が命からがら森の奥にあるというジュエルドラゴンが来る泉に着いたとき、周りにはだれもいなかった。

だが、その場所で君は確かに見た。体に色とりどりの宝石をつけたジュエルドラゴン――

君が、捕獲を試みようとした瞬間、再び得体の知れない怪物が襲撃してきたため、捕獲をあきらめ逃げるしかなかったが、君は確かにジュエルドラゴンを見たのだ。

その後のことは良く覚えていないが、君はぼろぼろになりながら、何とか森から抜け出し、生還することができた。

しかし、その後がさらに大変だった。探索は失敗。スポンサーは激怒し、援助金の返還を求めてきた。

だが、君にそんな返却能力はない。大学を辞めて、全財産を売るハメになるだろう。それでも全額は返済できない。なんとか返却期限を引き延ばして一年。これ以上引き伸ばすのはもう無理だ。そして、君は決意をする。

「もう一度、百竜の森に入って、ジュエルドラゴンを捕獲しよう！」

ジュエルドラゴンさえ捕獲できれば、体についている宝石を売ることで問題も解決できる。それに、運よくカオスドラゴンの肉も手に入れることができれば、言うことなしだ。大学に残って勉強を続けるには、これしかない。

しかし、今回は前回のように大規模な捜索隊を率いていくことはできない。古びた杖と金貨10枚、そして自分自身の体が君の今の全財産だ。これをもってあの百竜の森に行かなければならない。大変危険だが、成功させなければ破滅だ。君はその身を奮い立たせて向かった。見たこともない怪物が跋扈する百竜の森へ。

1へ進め。